

# ロンドン日本人学校における特別支援教育の取組

前ロンドン日本人学校 教諭

佐賀大学文化教育学部附属特別支援学校 教諭 大 淵 栄 一

**キーワード：特別支援教育，校内体制，ニーズに応じた教育課程，交流**

## 1. はじめに

ロンドン日本人学校では、「障害のある子どもの教育を日本人学校でも」との要望で、平成8年4月に、通級による個別支援教育「テムズ教室」がスタートした。対象の児童生徒は知的障害、弱視、難聴、学習障害等、様々であった。その後、平成11年4月に知的障害のある児童生徒を対象に専門的に教育を行う「テムズ学級」が開設された。開設当時、担任2名体制で、知的障害養護学校の教育課程を基に指導を行ってきた。平成15年度より定員制に移行し、定員を4名程度とした。平成17年度よりテムズ学級単独での教育課程から、必要な時間だけ交流学級での学習を可能にする形に移行した。

平成11年度のテムズ学級開設当初より、指導者2名体制で運営を行ってきたが、転入、転出の多い日本人学校であるため、在籍児童生徒が1名になり、指導者も1名体制に移行した時期もあった。平成20年度には中学部2年生の2名と小学部4年生2名の在籍になり、指導者も2名体制に移行し、現在に至っている。(平成21年度4月)

本稿では、平成18年度から平成20年度における、ロンドン日本人学校の特別支援学級であるテムズ学級での一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育の取組について紹介する。

## 2. 校内体制について（特別支援教育委員会）

ロンドン日本人学校では、「特別支援教育委員会」が平成17年度より校務分掌上に常設の委員会として設置された。この委員会は、「テムズ学級」及び通常学級に在籍し、特別な支援が必要な児童生徒に必要な教育的支援を行う「個別支援教育」の二つの運営を担っており、特別支援コーディネーター（ロンドン日本人学校では教頭が兼務する）を中心に運営される。特別支援教育委員会の目的及び役割等を以下に示す。

### (1) 特別支援教育委員会の目的

児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、そのもてる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び支援を行うことを目的とする。具体的な目標は、下記の3点を挙げる。

- ① テムズ学級に在籍する障害のある児童生徒の特別支援教育を推進する。(テムズ学級)
- ② 通常学級に在籍する個別に支援が必要な児童生徒の教育を推進する。(個別支援教育)
- ③ 特別支援教育について共通理解を深めるために、校内研修をする。

### (2) 構成

校長 教頭（コーディネーター） 教務主任 テムズ学級担任及び副担任 小学部統括主任 中学部統括主任  
養護教諭（学校医）

### (3) 役割

- ① 学習面や行動面で特別な教育的支援が必要な児童生徒に早期に気付く（統括主任）
- ② 特別な教育的支援が必要な児童生徒の実態把握を行い、学級担任の指導への支援方を具体化する。(コーディネーター及びテムズ主任)
- ③ テムズ学級に在籍する児童生徒の保護者や交流学級担任と連携して、個別の指導計画を作成する。(テムズ学級担任及び副担任)

- ④ 特別な教育的支援が必要な児童生徒への指導とその保護者との連携について、職員の共通理解を図る。また、そのための校内研修（4月に「本校における特別支援教育について」7月に「LD, ADHD, 高機能自閉症等について」を実施する。（コーディネーター及びテムズ担当）
- ⑤ 保護者相談の窓口となるとともに、理解推進の中心となる。（コーディネーター）
- ⑥ 特別支援教育委員会で検討する事項に関して、適切な教育的支援が行われるように、学校を運営する立場や職務を管理する立場、あるいは児童生徒の健康状況を把握している立場から意見を出す。

### 3. ニーズに応じた教育課程作り

テムズ学級では、平成11年度の開設当初より「個別の指導計画」に基づいた1人ひとりのニーズに応じた教育を行ってきた。しかし、テムズ学級単独での運営を行ってきたため、通常の学級での学習や交流は朝の会や帰りの会、昼食時がほとんどであった。平成17年度よりテムズ学級独自の教育課程ではなく、可能な限り一人ひとりの教育的ニーズに応じて交流学級で学習できる形に移行した。交流学級での学習内容の希望は1人ひとり違うため、テムズ学級の在籍者が4人いれば、4通りの教育課程ができあがることになる。以下にテムズ学級の運営と実際の時間割の調整方法について示す。

#### (1) 基本的な考え方

- ・テムズ学級で学習する時間、交流学級で学習する時間は、それぞれの教育的ニーズに応じて設定することとする。
- ・テムズ学級在籍者ということから、どの児童生徒も半数を超える時間は、テムズ学級で学習することを基本とする。（1週間の授業時数が30時間であれば、16時間以上はテムズ学級で学習する。）
- ・教育課程については、個別の指導計画に基づき、個に応じて設定する。

#### (2) 週時程について

- ・週を通して、朝の会（1校時）、帰りの会、清掃をテムズ学級在籍者全員で学習する。
- ・水曜、金曜の3、4校時は、全員がテムズ学級で学習する。（生活単元学習）
- ・上記以外の時間には、個に応じた時間を設定する。（個別学習、交流級での学習等）

#### (3) 時間割の調整

テムズ学級では、1校時は全員が揃って朝の会を中心とした活動、水曜日と金曜日の3、4校時は生活単元学習の時間として合計9時間位置づけている。テムズ学級の在籍者ということを考慮し、その9時間以外にも最低7時間はテムズ学級で学習する。残りの14時間については、ニーズに応じて交流学級で学習することを可能にしていた。

本人や保護者の教育的ニーズを反映した時間割作りを行うため、3学期になると次年度の学習内容の希望調査を保護者に行い、最大14時間の範囲で、交流学級でどのような学習を希望するか調査する。その後、子どもの実態を考慮しながら、保護者との懇談を経て交流学級で学習する教科やテムズ学級での学習内容を決定していく。次に全員の時間割を並べ、週当たりの必要支援者数を洗い出し、支援体制との兼ね合いを考慮した上で個々の時間割を決定することとしている。以下に、平成18年度末に行った具体例を用いて、その手順を示す。

平成19年度4月より新中1の2名（A生徒、B生徒）、4月末より日本より転入してくる新小3の1名（C児童）の合計3名がテムズ学級で学習する予定であった。平成18年度末に、交流学級で学習できる時間を14時間以内に設定して保護者に希望調査を行った。以下に3児童生徒の交流学級での希望内容を示す。個々で異なるニーズに対応していくことを優先して考えるならば、新中1の2名を異なる交流学級で学習するようにした方がよりニーズに対応できると考え、B生徒を中1A、A生徒を中1Bとして時間割を考えていった。保護者の希望内容と表1に示している交流学級の時間割を照らし合わせていった。

○交流希望内容（優先順位で示す）

- A生徒：①体育 ②美術 ③技術・家庭 ④音楽 ⑤学活 ⑥LT ⑦英会話 ⑧英語，  
 B生徒：①数学 ②理科 ③音楽 ④体育 ⑤美術 ⑥社会 ⑦技術・家庭 ⑧英会話  
 C児童：行事を中心に交流し，他はテムズ学級で実態に合わせて学習内容を組む。

表1

	月			火			水			木			金		
	小3	中1A	中1B	小3	中1A	中1B	小3	中1A	中1B	小3	中1A	中1B	小3	中1A	中1B
1		数学	体育	英会	英語	国語		国語	理科		国語	数学		国語	社会
2	図/音	理科	数学		体育	英語		数学	英語		音楽	英語			数/体
3	図工	家庭	技術		道徳	道徳		英語	社会		理科	社会		体育	LT
4		技術	家庭		数学	理科		英会	社会		国語	理科		音楽	LT
5	体育	英会	英会		理科	国語		書写	LT		LT	体育		理科	プレイ
6		学活	学活		体育	理科		数学			LT	LT		英会	英会

テムズ学級の基本である，週を通しての1校時目と水曜，金曜の3，4校時の生活単元学習をテムズ学級の3人が一緒に学習していく時間として確保していった。また，運動会，文化祭等の学校行事に関する内容を指導しているLT（ロンドンタイム：総合的な学習）や学級作りを行っている学活には，交流学級の一員としてテムズ学級の生徒をクラスの中に位置づけていくためにも交流させたい内容であった。これ以外で最大14時間の範囲で，個別のニーズに応じて交流学級で学習する時間を最大限確保していったものが表2のような時間割である。

表2

	月			火			水			木			金		
	小3	中1A	中1B												
1	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆
2	☆	理科	☆	☆	体育	英語	☆	☆	数学	英語	☆	☆	☆	☆	数/体
3	☆	☆	技術	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆
4	☆	☆	家庭	☆	数学	☆	☆	☆	☆	☆	☆	理科	音楽	☆	☆
5	☆	英会	英会	☆	☆	☆	☆	☆	LT	LT	☆	☆	☆	☆	英会
6	☆	学活	学活	☆	理科	☆	☆	☆	LT	LT		☆	英会	☆	美術

※☆印はテムズ学級で学習する時間：16時間以上

※交流学級での授業：最大14時間（交流学級の時間割や児童生徒の実態等でこれよりも少なくなることもある）

A生徒：技術・家庭 (2) 英会話 (3) 学活 (1) 英語 (3) L.T (2) 体育 (1.5) 音楽 (1) 合計13.5

B生徒：数学 (2.5)，理科 (3) 学活 (1) L.T (2) 英会話 (2) 体育 (2.5) 美術 (1) 合計14.0

※B生徒は英会話を3時間交流学級で学習できるが保護者のニーズの優先順位と交流学級で学習可能な14時間を考慮し英会話を2時間とした。

C児童：行事を中心に交流し，他はテムズ学級で実態に合わせて学習内容を組む。

表2にテムズ学級の指導者数を入れていったものが表3である。

表3

	月				火				水				木				金			
	小3	中1A	中1B	指導者																
1	☆	☆	☆	大	☆	☆	☆	大	☆	☆	☆	大	☆	☆	☆	大	☆	☆	☆	大、上
2	☆	理科	☆	大	☆	体育	英語	大	☆	数学	英語	大	☆	☆	☆	大、上	☆	数/体	体/☆	牧、上
3	☆	☆	技術	大、牧	☆	☆	☆	大、牧	生単	生単	生単	大、上	☆	☆	☆	大、上	生単	生単	生単	大、上
4	☆	☆	家庭	大	☆	数	☆	大、上	生単	生単	生単	大、上	☆	理科	音楽	牧	生単	生単	生単	大、上
5	☆	英会	英会	大	☆	☆	☆	大、上	☆	LT	LT	牧	☆	☆	☆	大、上	☆	英会	英会	上
6	☆	学活	学活	上	☆	理科	☆	牧、上	☆	LT	LT	大	☆	☆	☆	上	☆	美術	英語	大

A生徒 テムズ学級 朝の活動（5時間）生活単元（4時間）国語・数学等（7.5）交流学級13.5 合計30時間

B生徒 テムズ学級 朝の活動（5時間）生活単元（4時間）国語・数学等（8）交流学級14.0 合計30時間

C児童 テムズ学級 朝の活動（5時間）生活単元（4時間）他も全て基本的にはテムズ学級で授業（図工・音楽・

書写・体育をテムズで行っていく) 学校生活に慣れて来て、交流学級での授業が可能と特別支援教育委員会で判断した時に、昼食、技能教科を中心に交流学級でも学習する。 合計30時間

毎年、年度末から始めにかけて、以上のような作業を通して、ニーズを反映した時間割作りを行った。手間も時間もかかる作業であったが、保護者の満足感につながっただけでなく、ニーズに応じた教育課程を作っていくという気持ちが全校に浸透するという効果も見られた。

#### 4. 指導体制と連絡会

交流学級での学習の時間は、テムズ学級の子どもたちにとってとても楽しみにしている時間であると同時に、とても緊張する時間でもある。テムズ学級の担任や交流学級の担任が、事前に打ち合わせをすることで、どちらの学級の子どもたちも生き生きと交流できることが多い。そのため、担当者同士の連絡会議を年度当初に年間の計画に位置づけている。

テムズ学級担任 (A) : 在籍者の交流学級・学年の動向に応じて、テムズ学級で指導する場合と、交流学級・学年においてT2, T3として指導に参加する場合がある。

支援教員 (B) : テムズ学級担任と連携しながら、また、不在の時間にテムズ学級で指導する。

交流学級担任 (C) : 個別の指導計画を作成する段階から参画し、テムズ学級の時間割作成に関しても協力する。交流学級内の指導に関しては、個別の指導計画に基づき、その目標が達成できるようにテムズ学級担任と連携しながら指導にあたり、交流学級における学習の評価を行う。

※各連絡会 (特別支援教育コーディネーターの運営による。)

テムズ連絡会 I (A, C) : 2週に1回程度連絡会を行い、学習内容や時間割等について調整を行う。

テムズ連絡会 II (A, B, C) : 各学期の始めと終わりに連絡会を行い、指導内容の確認や評価を行う。

#### 5. おわりに

私は、三年間テムズ学級を担当した。テムズ学級は、特別な教育ニーズのある子どもたちがロンドンでも安心して学習できるようにと、平成11年に欧州の日本人学校ではもっとも早く開設された。その時に掲げられた思いが、その後の実践の積み重ねの中で実を結び、小学部、中学部、テムズ学級の子どもたちが互いに支え合い、励まし合い、高め合うことが学校のよき伝統の一つとなっている。特別支援教育に移行し、テムズ学級を中心とした個に応じた支援を行う中で、教育ニーズに応じて対応していく考え方が浸透し、テムズ学級の児童生徒が交流学級の中で生き生きと活動する場面が多く見られるようになった。さらに、交流学級の担任や児童生徒も、これまで以上にテムズ学級の児童生徒と頻繁に関わる場面ができ、サポートする存在ではなく、お互いに認め合う存在となってきた。

テムズ学級は、ロンドン日本人学校で一番小さい学級である。しかし、特別支援教育に移行し、学校全体で支援する体制によって大きな存在感のある学級となっている。そのような中で3年間過ごせたことはとても幸せだったと思う。暑い日も寒い日も頑張って走った「朝の運動」、バザーでの成功をめざしバッジや指ぬき立てを丁寧に作った「テムズの店屋さん」、みんなで夏休みにホテルに泊まった宿泊学習など、テムズ学級の素敵な仲間と過ごした時間はどれも大切な思い出となっている。この学級で過ごした3年間は私の大切な宝物となっている。